

来場者アンケート報告

キッズパークまつもと



2025年1月11日 - 13日開催

実行メンバー 中村・長澤・小口・小林・高山

実施に至る背景

自然豊かな松本市には、子どもたちが思いっきり遊べる屋外の公園が数多く存在します。その一方で、雨天、降雪、酷暑など屋外施設が使用できない場合に「屋内で遊べる場所が少ない」という声が根強くあります。また、交通量が多く、公園が少ない中心市街地では、子どもたちが集まる空間が減少しつつあります。

再び中心市街地に子どもたちの笑い声や遊ぶ声が響き渡る日を目指し、この状況に変化をもたらすアクションとして、期間限定の社会実験を実施しました。本プロジェクトでは、子どもたちやそのご家族が楽しめる空間づくりに取り組みました。

実施後には、来場者の皆様からアンケートを実施し、その結果を共有いたします。

開催概要

開催日 1月11日（土） 10：30～16：15（6クール制） ※アメ市
1月12日（日） 10：30～16：15（6クール制） ※アメ市歩行者天国
1月13日（祝） 10：30～15：15（5クール制）

開催場所 松本パルコ 6F イベントスペース

来場者総数 **1,300名**



イベントレポート



アンケート報告

アンケート回答数 234名

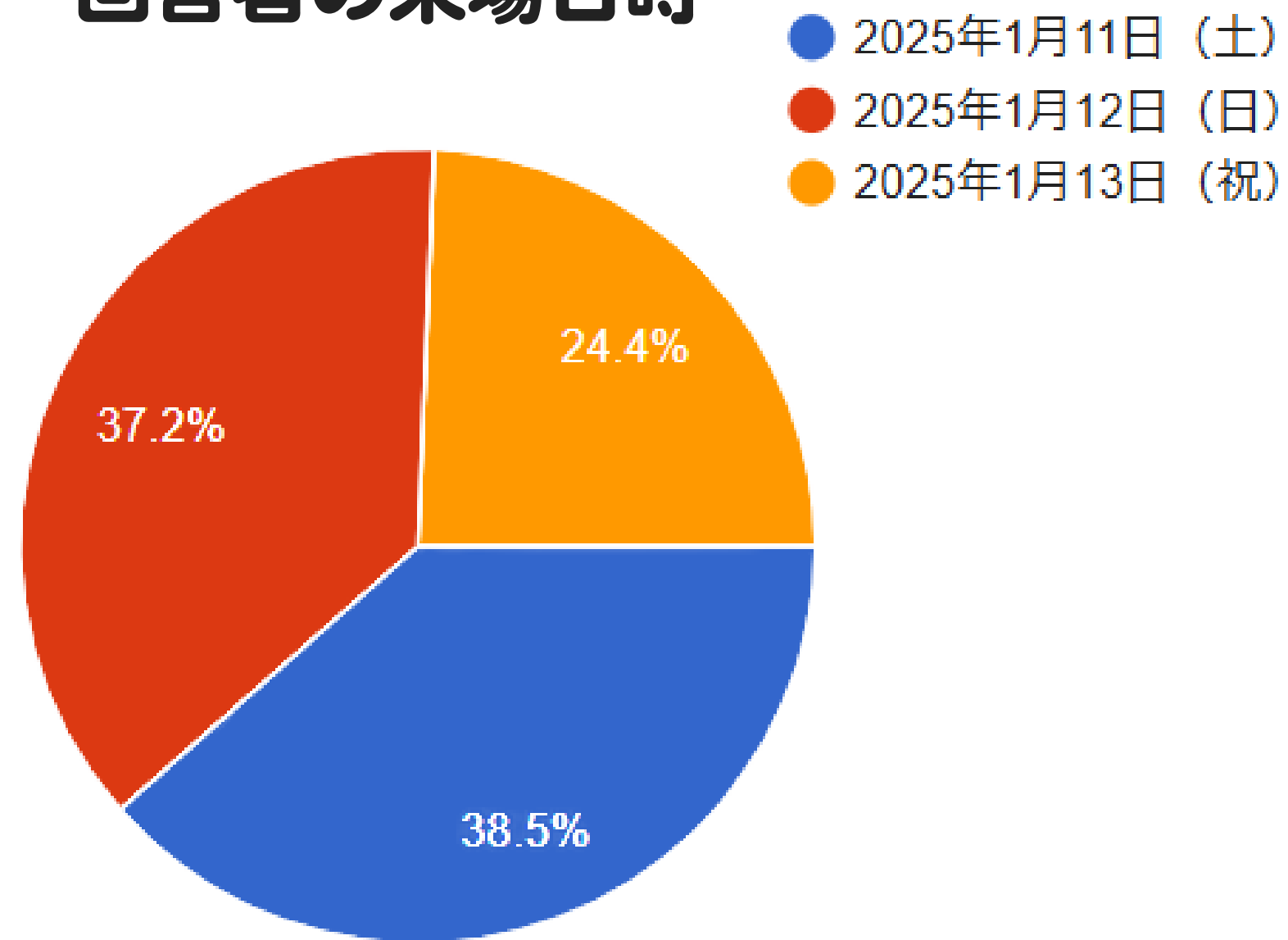
取得場所 キッズパーク松本名内（松本パルコ 6 F）

取得方法 来場者保護者の皆様にLINE登録をいただきGoogleフォームにて回答依頼

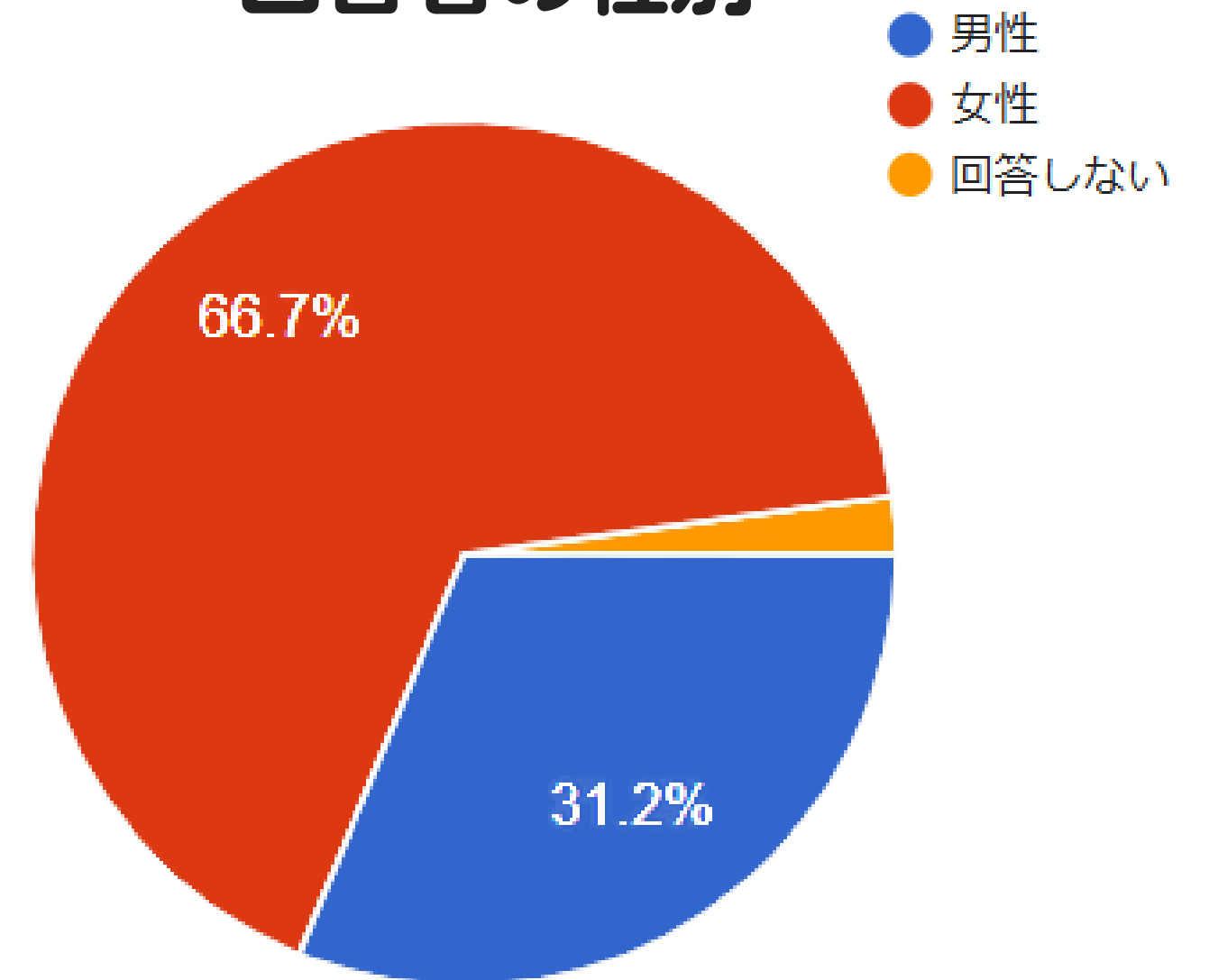


回答者プロフィール

回答者の来場日時



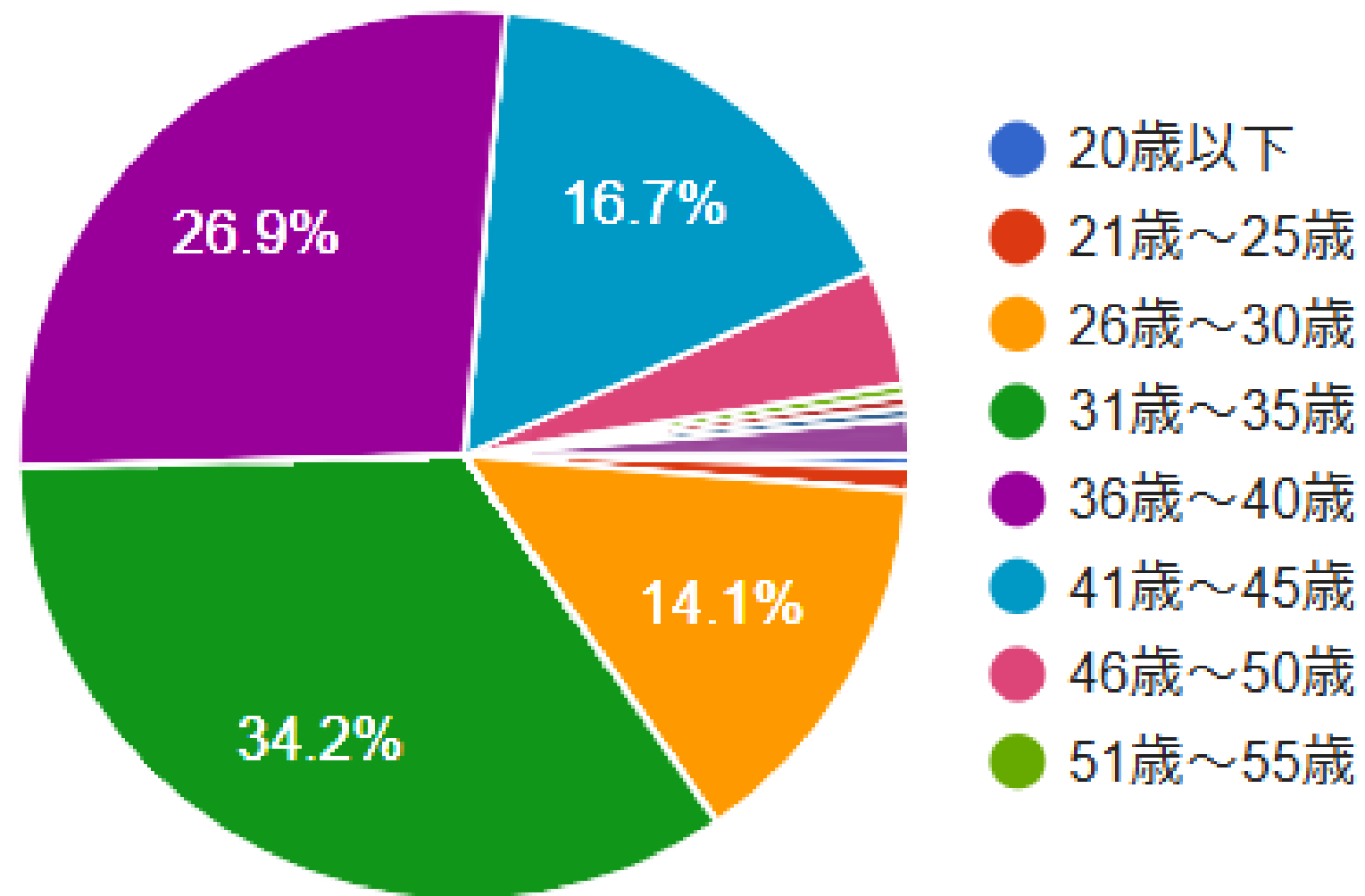
回答者の性別



回答者プロフィール

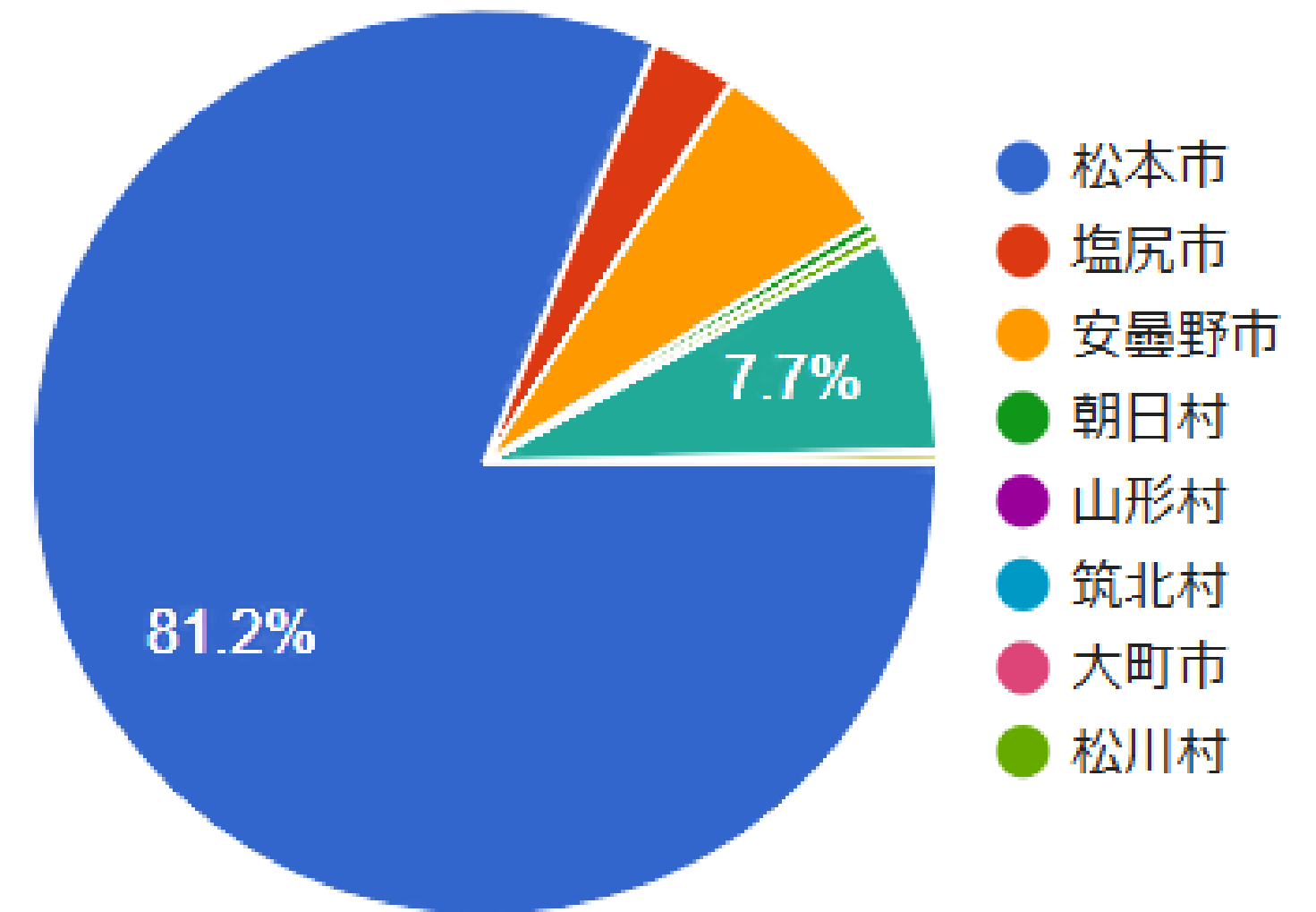
来場者の年齢

最も多い世代は31-35歳で全体の34.2%を占め、次いで36-40歳が29.9%、続いて41-45歳が16.7%、26-30歳が14.1%となっています。



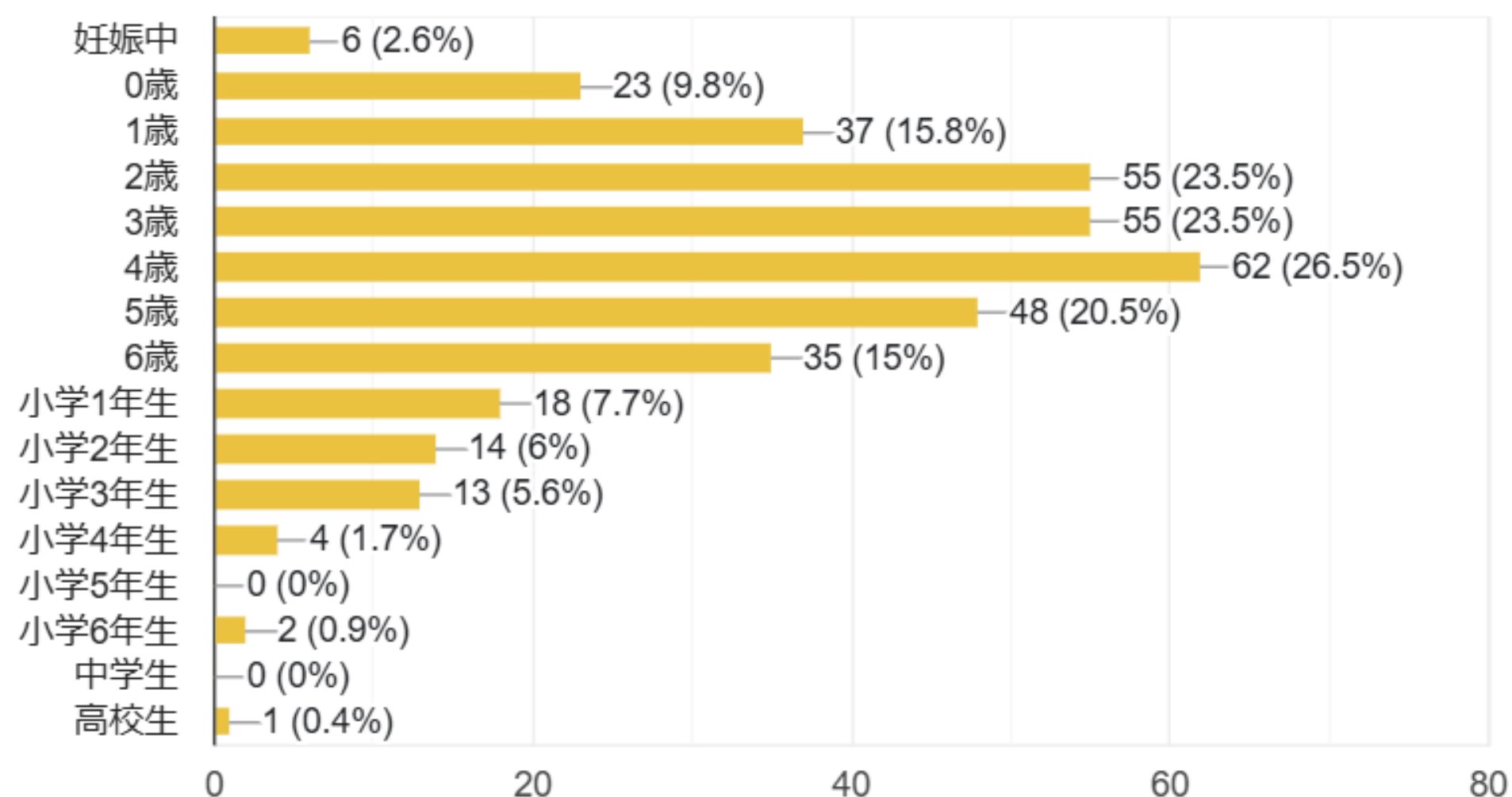
お住いの地域

松本市が81.2%と最も多く、次いで上記以外の県内が7.7%、安曇野市が6.8%、塩尻市が3%という結果となりました



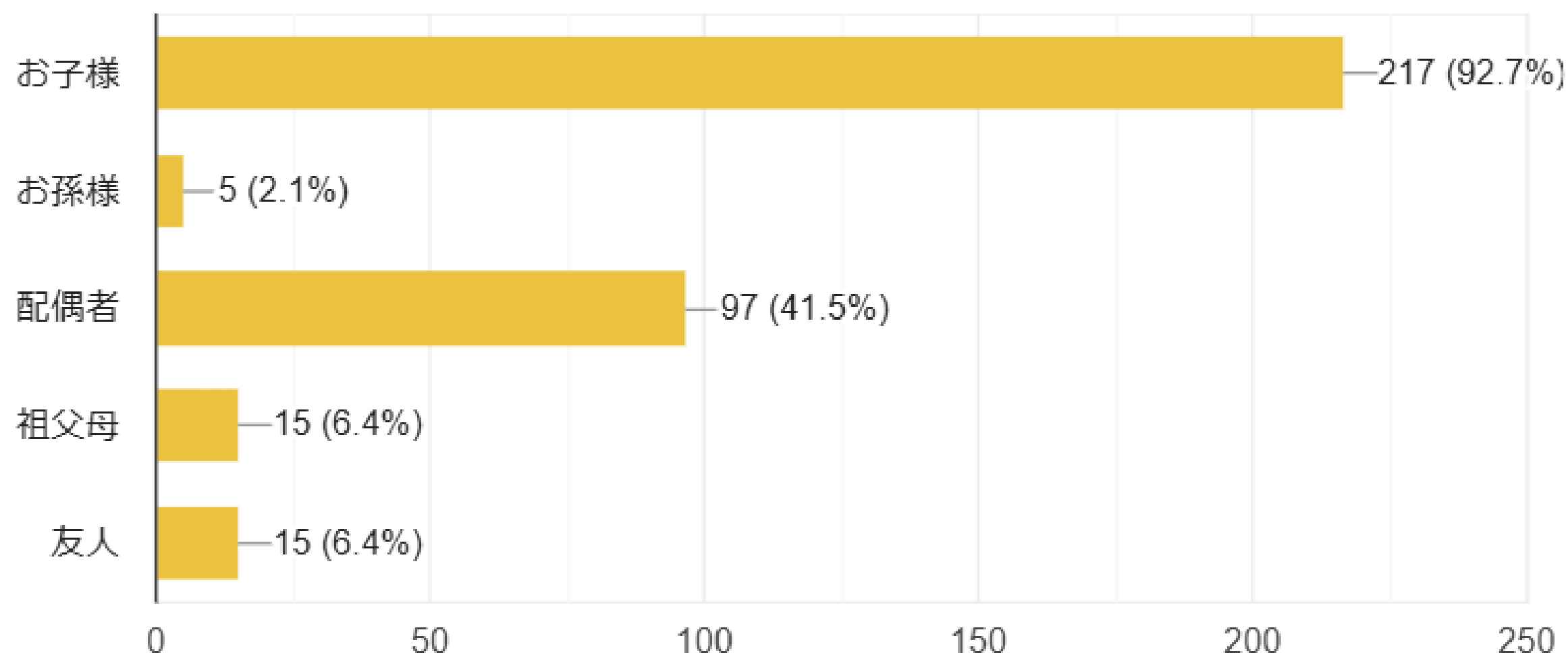
来場されたお子様の年齢をすべて教えてください。（該当するものをすべて選択）

今回の対象年齢が12歳以下だった来場者の年齢構成では、4歳が26.5%と最も多く、次いで2歳、3歳が23.5%、5歳が20.5%を占め、主に未就学児が中心となっていました。小学生の来場は全体の14.6%で、中でも特に小学1年生が7.7%、2年生が6%と低学年の来場が多く高学年の来場は0.9%にとどまりました。主な来場者は未就学児と小学校低学年であることがわかります。



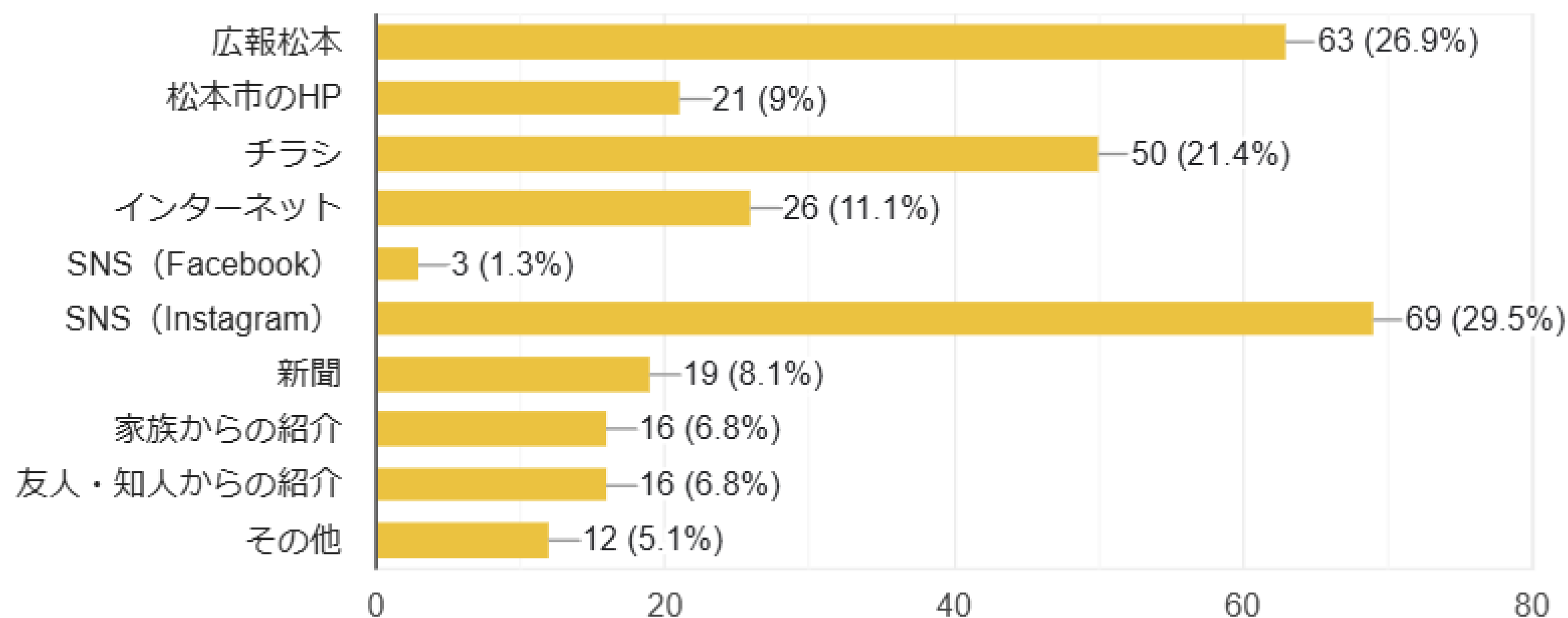
今回誰と施設に遊びにきましたか？（該当するものをすべて選択）

お子様と一緒に来場された方が92.7%と最も多く、次いで配偶者が41.5%でした。一方、祖父母や友人と来場された方は6.4%、お孫様と来場された方は2.1%と少数で、主に親子での来場が中心であることがわかります。



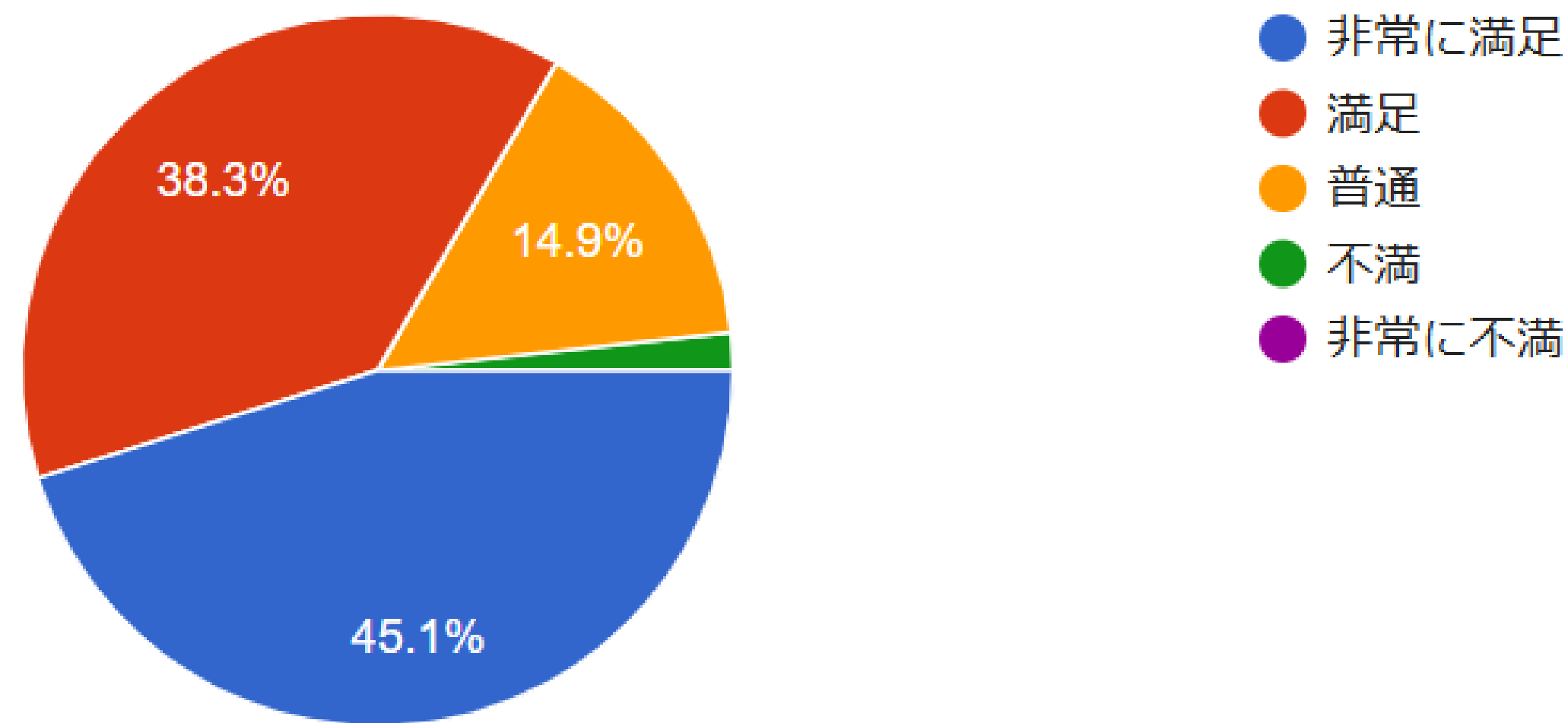
施設を訪れる前に知った方法は何ですか？（複数回答可）

施設を訪れる前に知った方法では、SNS（Instagram）が29.5%で最も多く、次いで広報松本が26.9%、チラシが21.4%、松本市のHPが9%という結果でした。このことから、松本市発信の広報が来場認知の大きなきっかけになっている一方で、SNSやチラシといった民間の情報発信も重要な役割を果たしていることがわかります



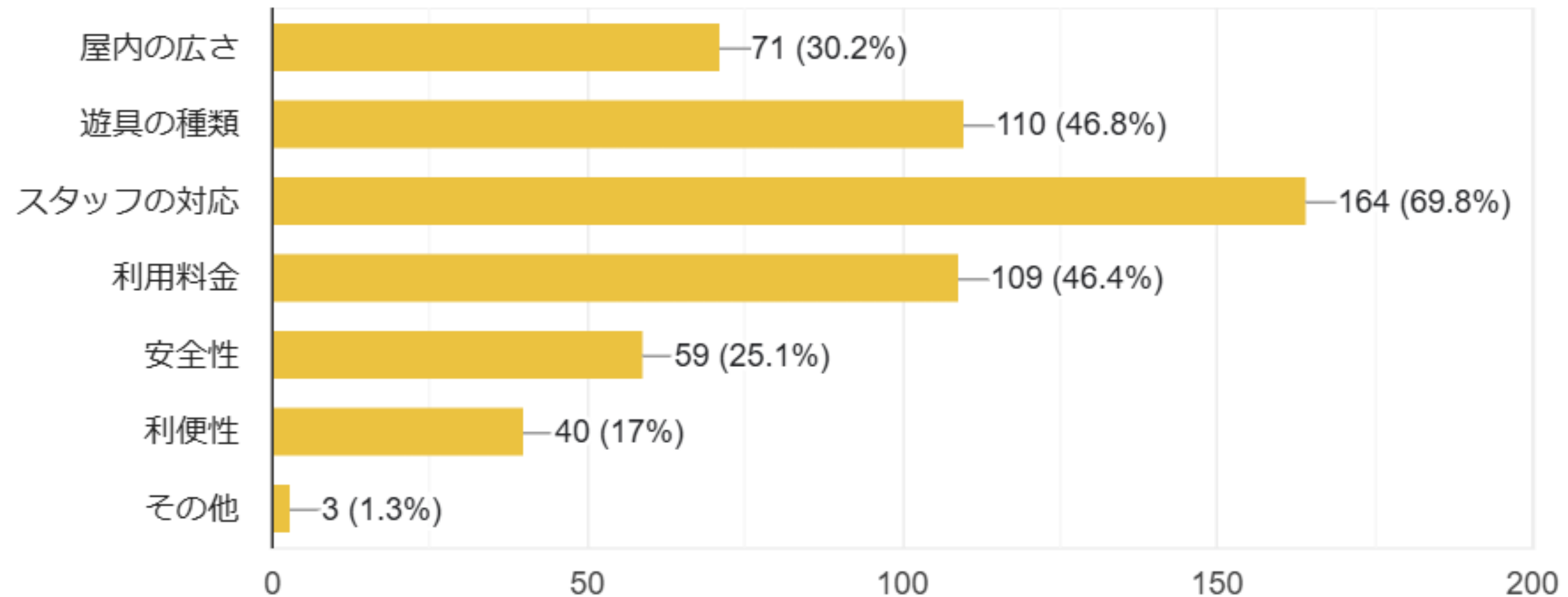
キッズパーク松本の満足度について

非常に満足と満足を合計した割合が全体の約83%である点から、多くの利用者の皆様が提供した環境に対して満足をしていただいた結果となりました。一方で普通や不満の要素については次頁の改善点も記載がありますが主に入場方法、施設の広さ、遊具の種類、利用対象年齢のギャップが要因であると考えます。



施設内で特に良かった点を教えてください。（複数回答可）

施設内の良かった点については、69.8%でスタッフの対応が挙げられました。ボーネルンドから派遣された遊具と子どものつなぎ役となるプレイリーダーとボランティアスタッフの存在の大切さが利用者にも伝わったと考えられます。また子どもたちの好奇心をくすぐる遊具や利用料金が無料であった点も好評の要因であったことが伺えます。



改善が必要な点について（自由記述）

施設利用の満足度が普通、不満であった要因について多かった意見は、主に遊具の種類がもっと欲しかったが1番多い結果となりました。また入場に関して待ち時間についての指摘もありました。全体の意見は下記の通りです。

- ・ **入場方法について**

待機列の長さや受付までの時間に対してストレスを感じられた
予約方法などについてはインターネットなどで事前予約を希望する声が多く聞こえました。

- ・ **遊具の種類について**

子どもたちが遊べる遊具の種類を増やして欲しいという意見が多くありました。

- ・ **広さについて**

限られたスペースではあるものの、もう少し広いスペースを望まれる声もありました。

- ・ **利用する世代について**

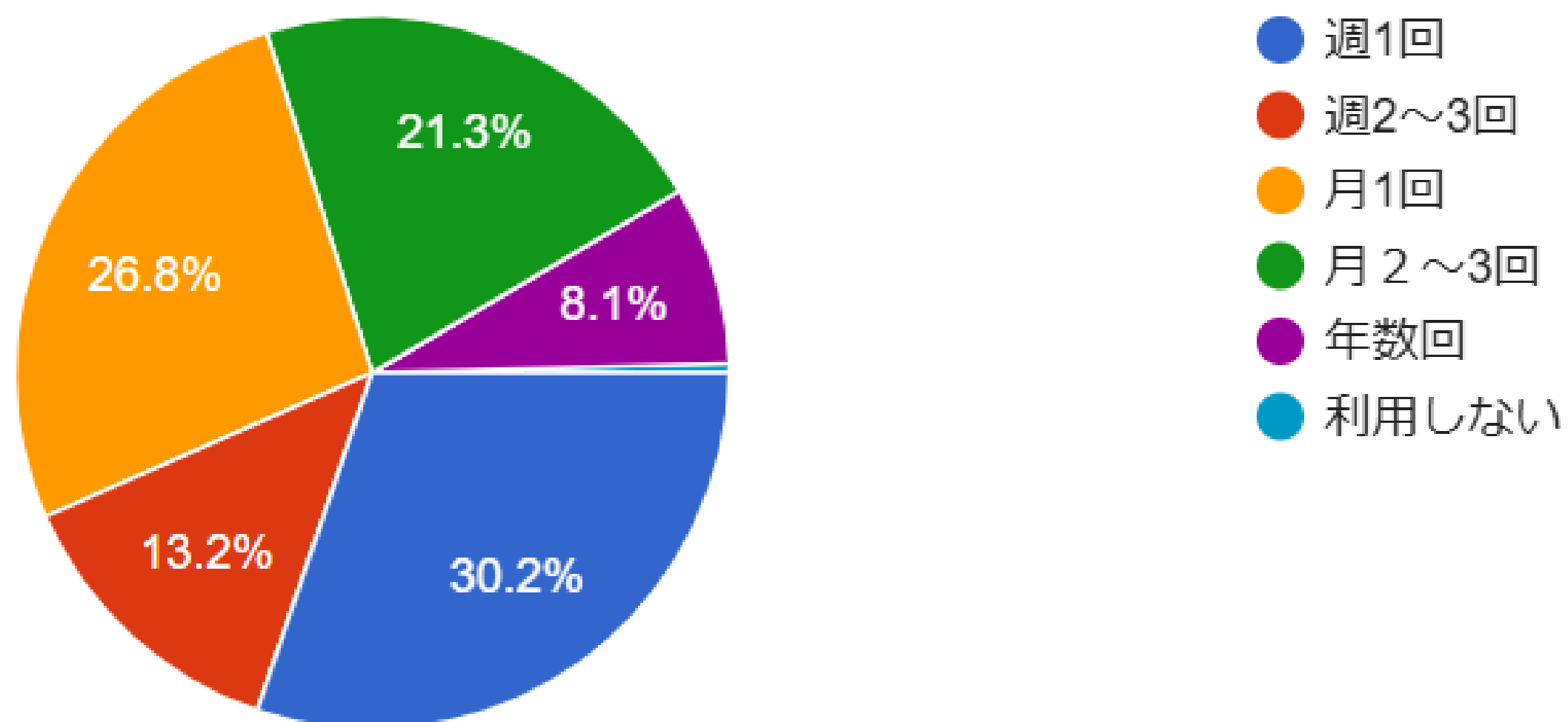
主に利用する世代が未就学児であった為、小学生（特に中学年以上）にとっては小さな子を気にしながら遊ぶことになった為、安全面からも世代毎のゾーニングや利用時間分配の提案が聞かれました。

- ・ **アクセス**

会場までのアクセスについて駐車場の少なさ、駐車料金の高さや渋滞などについてのご意見がありました。

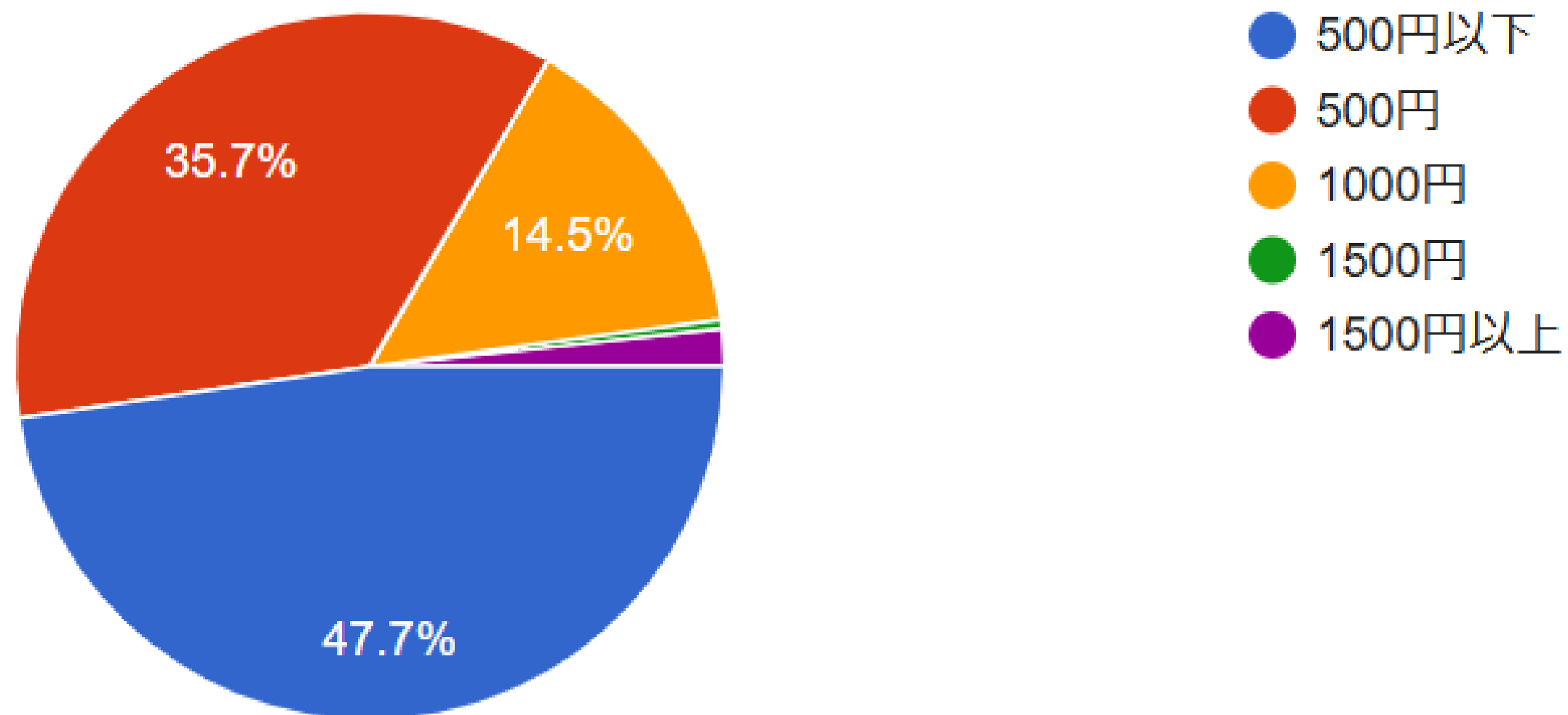
今後常設の屋内遊具施設が出来た場合、どのくらいの利用頻度について

週1回との回答が30.2%と最も多い結果となりました。週に2～3回、月に1回、月2～3回の回答を合わせると約90%が月に1回以上の利用を希望していることが分かります。



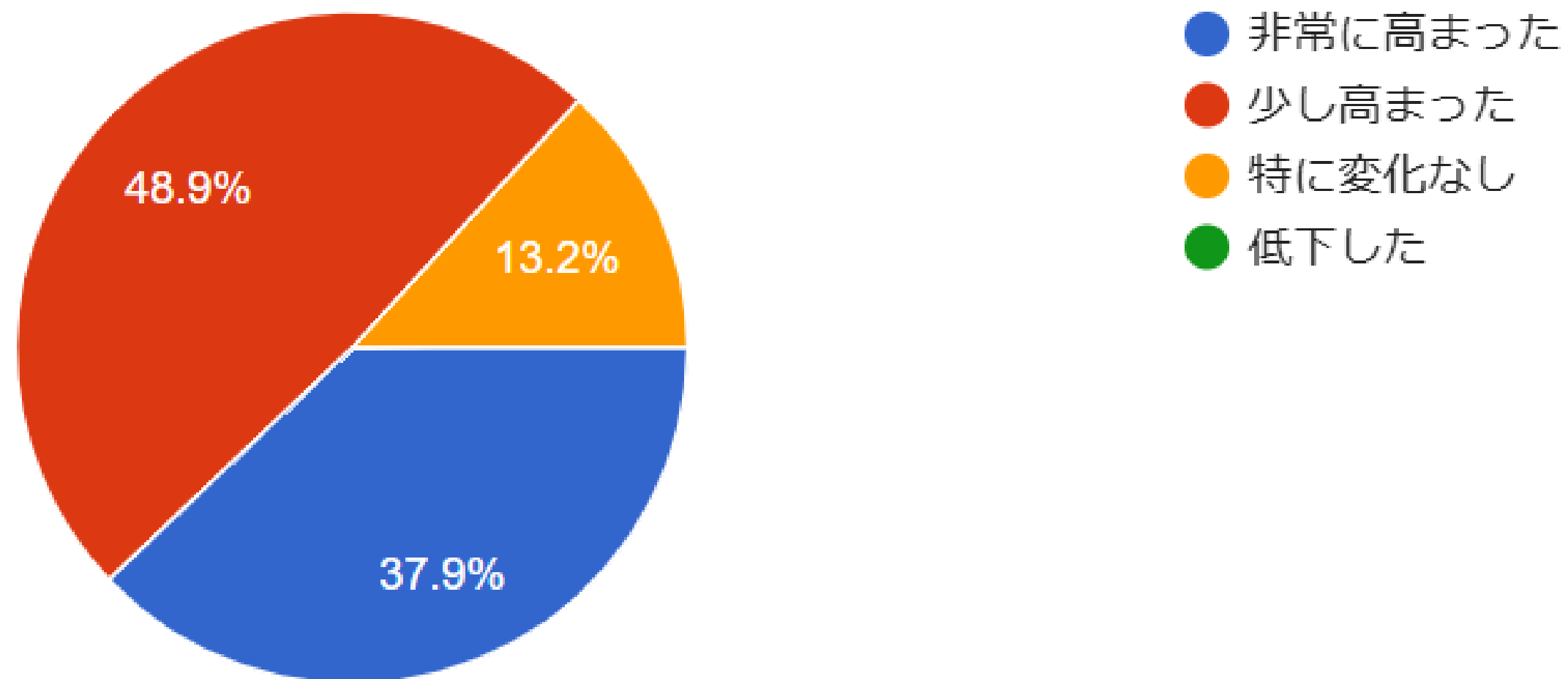
常設の施設が有料の場合、1回あたりどのくらいまで支払えますか？

500円以下という回答が47.7%で一番多くなりました。月に複数回利用をする声が多い為、出来る限り安価な利用料を望むことが伺えます。一方で1000円～1500円以上の回答も16.6%あり、施設のソフト、ハードの両面が充実すれば対価を支払う層も一定数いることが分かりました。



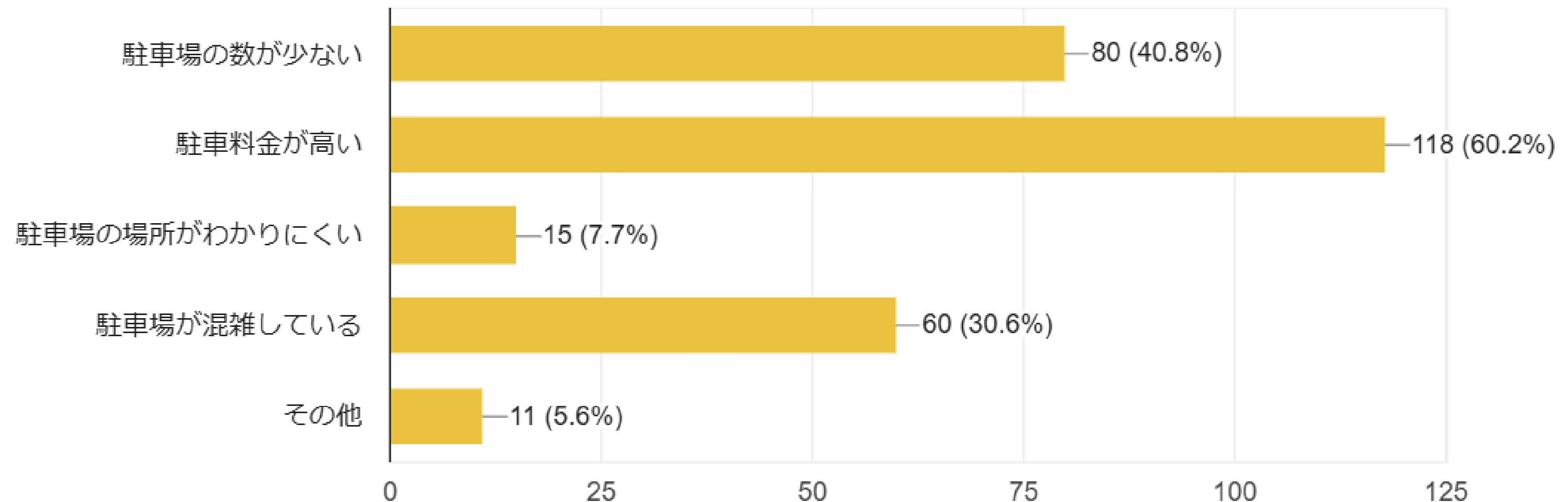
今回の施設利用で松本中心市街地への興味や関心が高まりましたか？

非常に高まったと少し高まったを合わせると86.8%となりました。本事業ような子育て世代が実際に中心市街地エリアに足を運んで今後もまちの在り方を考えるキッカケを継続的に作ることで、興味関心はさらに高まると推察される結果となりました。



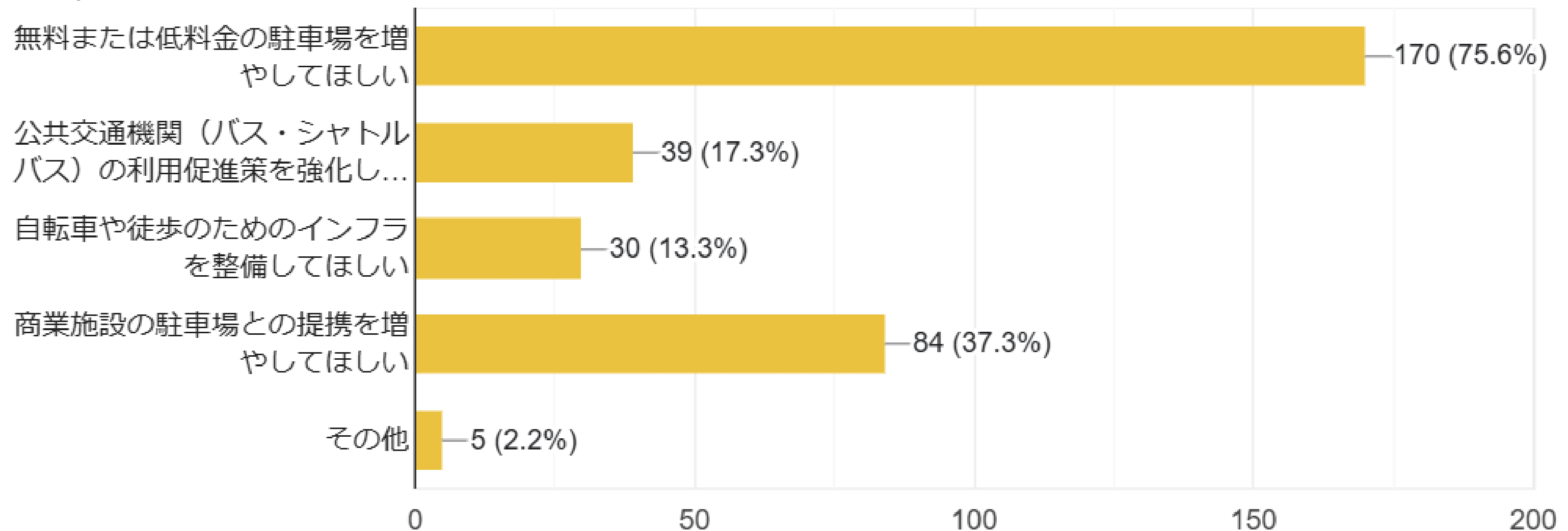
車で来場された方で駐車場について不便に感じる点の教えてください。 (複数回答可)

中心市街地の駐車料金の高さについての回答が60.2%と多い結果となりました。また駐車場の数が少ない点も課題点であるとの回答が40.8%となっており、車の流入数に対して駐車場の数に課題があることが分かりました。駐車料金の高さは滞在時間に影響する為、中心市街地の回遊性を高めるためにも対応すべき案件であると考えます。



中心市街地の駐車場問題について、どのような取組みを望みますか？ (複数回答可)

全体の75.6%が無料または低料金での利用を望んでいる結果となりました。現在行われている、施設の買い物せずとも提携駐車場を利用すると1時間無料になるブラパルコのような施策の拡充の声も37.3%と要望が多く挙がっています。公共交通の充実を図ると共に駐車場利用についても官民連携して検討していく必要があります。



今後、常設の屋内施設を作るとしたらどんな施設が欲しいですか？①

■子どもが遊べる施設の需要

未就学児や小学生低学年を対象とした安全で楽しい遊び場が多く求められています

年齢に応じた遊具やエリア分けが重要視されています

■身体を動かせる遊具のニーズ

トランポリン、大型遊具、アスレチックなど、体力を消耗し、ダイナミックに遊べる設備の要望が目立ちます

雨の日や冬場など屋外で遊べない時期に活用できる施設が求められています

■知育・体験型施設の期待

科学館や体験型の学習施設、プロジェクションマッピングや知育遊具などの知的刺激を提供する場への要望があります

■親子で楽しめる施設

飲食スペースや親がゆっくりできるカフェの併設が求められています

子どもが遊ぶ間、親が仕事や勉強に集中できるスペースの要望もあります

■利便性と清潔感

予約や決済がオンラインで可能な仕組み、混雑しない設計が望まれています

清潔感があり、頻繁に訪れたくなるような施設が必要です

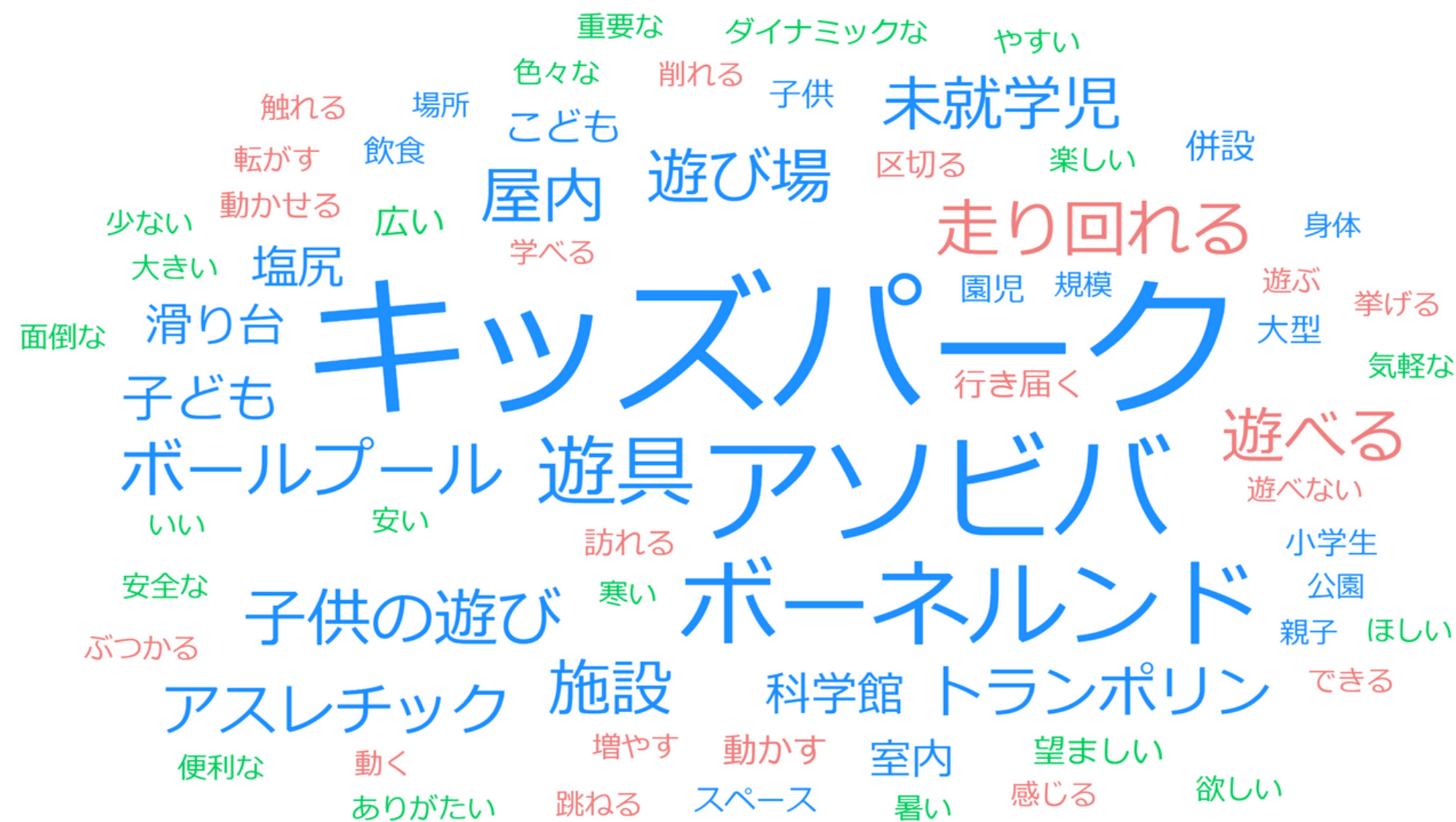
■具体的なモデルの参考例

他地域の施設（ボーンランド、ナガノビ、アソビバなど）が理想的な施設例として挙げられ、これらに類似した施設の期待が高い。また小坂田公園や松本市内に不足する屋内遊び場への言及も多数もありました

今後、常設の屋内施設を作るとしたらどんな施設が欲しいですか？②

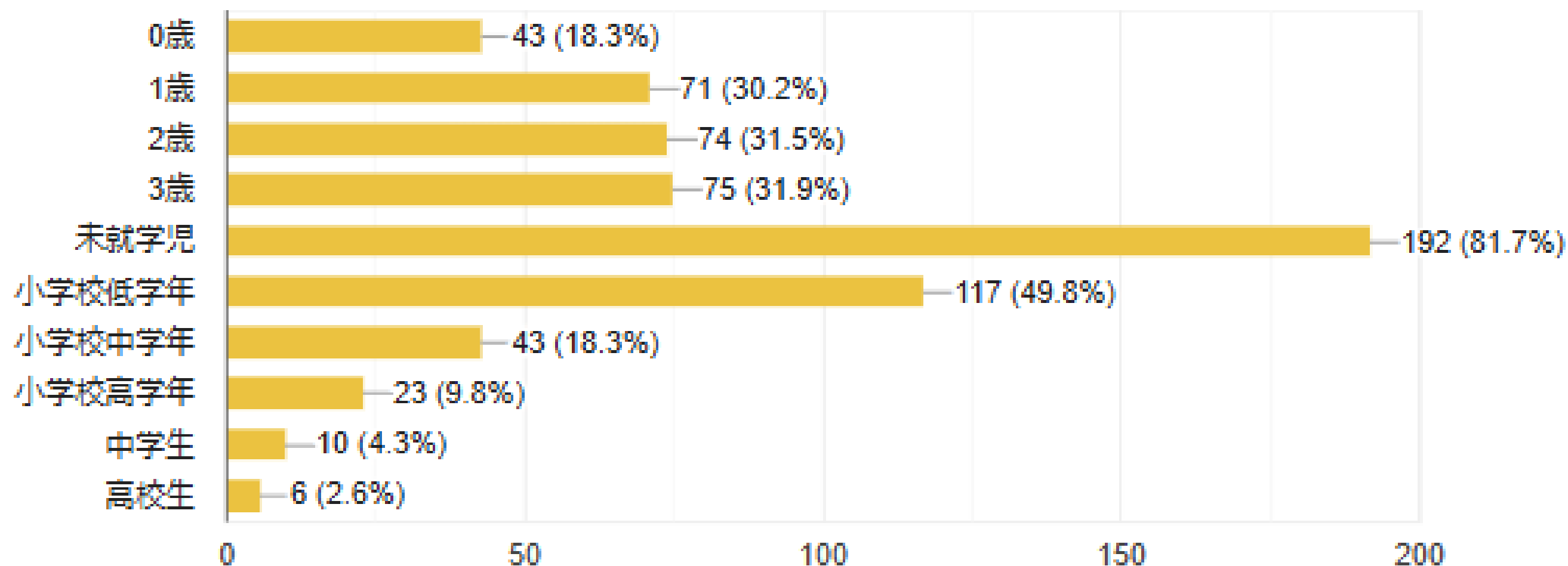
ワードクラウド

スコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさを図示しています。単語の色は品詞の種類で異なり、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞・形容動詞、灰色が感動詞を表しています。



どの年齢の子どもが遊べる施設を求めますか。

アンケート結果から、未就学児向けの遊び場の需要が最も高く（81.7%）、次いで小学校低学年向けも一定の需要がある（49.8%）ことが分かりました。また、未就学児内でも3歳、2歳、1歳がそれぞれ30～31%と年齢別のニーズが見られます。一方、小学校中学年以上の需要は低く、未就学児から小学校低学年を中心に、安全性やアクティブさを考慮した施設が求められています。



アンケート結果を通じて、市民の皆さまから寄せられた貴重なご意見が、
今後の施策や施設づくりにしっかりと反映され、
より良い街づくりに繋がることを心より願っています



商都まつもと賑わい発信プロジェクト